

生成AIを利用して個別の指導計画を 作成する際のコツと留意点

熊本大学大学院教育学研究科

准教授 本吉大介(公認心理師・臨床心理士)

文部科研技術支援者 財満昭彦(元・特別支援学校教員)

結論

コツ:子どもの実態把握ができていて、AIに詳しく伝えられること。

→特別支援教育の専門知識は必要(実態把握・指導方法・評価方法)。

→できるだけ具体的にAIに伝えること(言語化・プロンプト)。

留意点: AIに丸投げして、コピペして書類だけ作っても良い授業にはならない。

→生成された情報を精査すること(可能であれば複数名で)。

→節約した時間とエネルギーは、子どもに伝えるための授業準備に使う。

本日の内容

- ① 研究プロジェクトの紹介
- ② 生成AIについて
- ③ 生成AIをうまく使うためのコツ「プロンプト」
- ④ AIチャットボットの特徴とメリット
- ⑤ 自立活動の指導計画をサポートする「おげんまる」
 - ・ おげんまるの裏側(論文)
- ⑥ 生成AIを使う上での留意点
- ⑦ AIチャットボットを使ってニーズに合った情報を生成するための教師の専門性

⑦AIチャットボットを使ってニーズに合った情報を生成するための教師の専門性

(1)実態把握の力(専門知識)

- ・視点
- ・言語化
- ・数値化

(2)カウンセリングスキル(本人・保護者のニーズを明確化)

(3)指導場面の想像力(現場の実態に即した指導計画)

(4)トラブルシューティング(困ったらその場でAIに尋ねる)

従来から求められている専門性の向上と両輪でAIチャットボットは生きる。